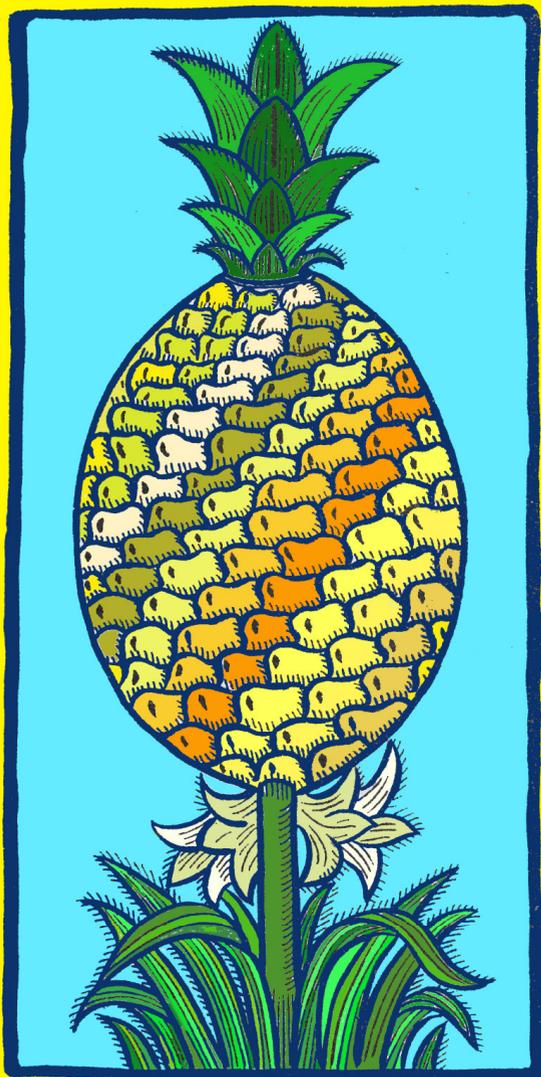


北海道大学附属図書館・大学文書館共催企画展示



「台湾は天然の恩恵裕なる」

——植民地台湾を駆けた北大卒業生たち

《第二期技術》試験場・研究所の技師として

場所：北海道大学附属図書館玄関ロビー
期間：2012年12月4日～2013年3月31日

あいさつ

附属図書館・大学文書館共催展示として、「台湾は天然の恩恵裕なる」——植民地台湾を駆けた北大卒業生たち」(全3期)の資料展示を開催します。

戦前期、多くの札幌農学校・北大卒業生が台湾に渡り、台湾総督府官吏、農事試験場技師、製糖会社経営者、大学・農業学校の教員などとして、日本による台湾植民地統治を下支えしました。同時に、台湾へ様々な学術・技術を持ち込みました。

また、彼らは、生まれ故郷である日本各地や学生時代を過ごした北海道と全く異なる台湾の風土に、一様に強い関心を抱いています。台湾総督府技師を務めた芳賀鋤五郎(札幌農学校第20期生)が台湾産果樹について述べた“台湾は天然の恩恵裕なる……”の言は、彼らの学問的求知心を示しています。

こうした台湾への学問的関心から生まれた知識、北大で学んだ学術・技術は、その普遍性ゆえに、台湾の植民地統治という目的の政治性や時代性から乖離して、台湾の産業・社会・文化の展開に大きな影響を与えていくという一面も見られました。

この展示では、植民地台湾を駆けた北大卒業生たちの人物と活動を紹介し、彼らの担った歴史的役割の多面性を考えます。

展示は、渡台時期による特徴に従い、3期に分けて構成します。

《第Ⅰ期 統治》台湾総督府の実務を担って

《第Ⅱ期 技術》試験場・研究所の技師として

《第Ⅲ期 学問と実業》高等農林・帝大と民間企業において

今回は第Ⅱ期として、1903年から1920年代の中期統治期に渡台し、台湾総督府の農事試験場・中央研究所農業部・農業試験所の技師となる卒業生を取り上げます。この展示を通じ、北海道大学の歴史と台湾との歴史的な交わりの一面を考えてみたいと思います。

展示の概要

《第Ⅱ期 技術》試験場・研究所の技師として

日本の台湾植民地統治の最重要政策のひとつであった農業振興において、北大卒業生は、農業技術者として極めて大きな役割を担いました。

台湾総督府の農業関係調査研究機関であった農事試験場は、後に中央研究所農業部・農業試験所と改組を行ないますが、組織管理・運営の中枢には、常に北大卒業生が当たりました。藤根吉春・鈴木真吉(農事試験場主事)、大島金太郎・渋谷紀三郎(中央研究所農業部長)、磯永吉(農業試験所長)などです。また、種芸・農芸化学・糖業・植物病理・応用動物・畜産などの各分野や地方支所の長をはじめ、試験場や研究所農業部の技師の多くは北大卒業生が占めました。

具体的には、サトウキビ（金子昌太郎）、米（磯永吉）、バナナ（芳賀鉄五郎）、パイナップル（桜井芳次郎）、サツマイモ（平間惣三郎）、麻繊維（井街頭）、茶（谷村愛之助）、牛（柳川秀興）といった台湾の主要農産物の生産・加工技術です。さらに、それを支える植物病理（川上瀧彌、三宅勉）、害虫対策（素木得一、三輪勇四郎）、肥料（渋谷紀三郎）の調査研究などです。

農業技術者として台湾に渡った北大卒業生の仕事、日本が台湾を植民地として支配・統治するための方策の一環であったことは、歴史的に動かし難い事実です。その一方で、それが、戦後の台湾社会、特に産業構成に大きな影響を与えたという側面もあります。このことは、彼らの技術・研究が、高度な普遍性を有していたことを証左するものです。

展示資料の構成

- I. 農事試験場からの出発——有用植物、燐酸、麻、苧蕉
- II. 中央研究所農業部への改組——露菌病、甘蔗、垂爾加里土壤、黄牛
- III. 農業試験所に——茶、甘藷、鳳梨、叩頭虫
- IV. エンジニアたちのラボラトリー

展示資料の紹介



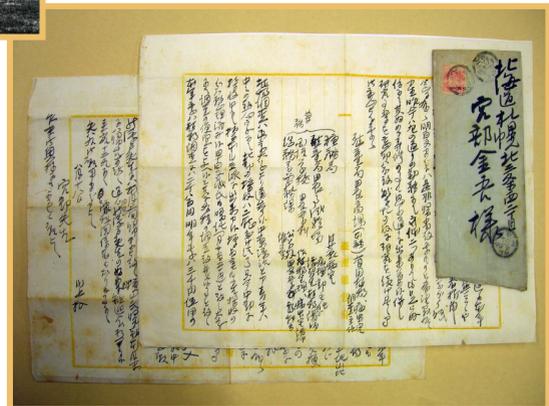
1. 台湾総督府農事試験場庁舎

『台湾総督府農事試験場創立十五年紀念』1913年より。

（大学文書館・附属図書館所蔵）

2. 川上瀧彌の兼務多忙を伝える書簡 （1903年2月、熊本）

恩師宮部金吾教授に宛てた書簡。殖産局農商課の本務のほか、臨時台湾糖務局、農事試験場、国語学校農業科等での兼務で多忙をきわめていた。（大学文書館所蔵）



資料パネルの構成

1. 《写真》「農事試験場の全景」（1913年頃、台北）
2. 《写真》「新渡戸稲造博士訪台記念」（1909年1月、台北）
3. 《写真》「農事試験場庁舎」（1913年頃、台北）
4. 《写真》「中央研究所庁舎」（戦前期絵はがきより）
5. 《年表》「台湾植民地統治と北大卒業生の関連年表」
6. 《図》「台湾総督府中央研究所・支所配置図」
7. 《郵便物》「台湾総督府中央研究所からの年賀状」（1933年）
8. 《写真》「宮部金吾博士訪台記念」（1934年12月27日、台北）

パネルの構成

《人物紹介パネル》

I. 農事試験場からの出発——有用植物、燐酸、麻、苧蕉

1. 川上瀧彌（札幌農学校18期生）
2. 井街頭（札幌農学校19期生）
3. 鈴木真吉（札幌農学校19期生）
4. 芳賀鋏五郎（札幌農学校20期生）

II. 中央研究所農業部への改組——露菌病、甘蔗、亜爾加里土壤、黄牛

5. 三宅勉（札幌農学校21期生）
6. 金子昌太郎（札幌農学校21期生）
7. 渋谷紀三郎（1908年卒業）
8. 柳川秀興（1909年卒業）

III. 農業試験所に——茶、甘藷、鳳梨、叩頭虫

9. 谷村愛之助（1915年卒業）
10. 平間惣三郎（1910年卒業）
11. 桜井芳次郎（1920年卒業）
12. 三輪勇四郎（1927年卒業）

IV. エンジニアたちのラボラトリー

《回想パネル》

- (1) 「困難と失敗の日々」 井街頭
 - (2) 「病害と品種との関係」 三宅勉
 - (3) 「黄牛・水牛・こぶ牛」 柳川秀興
 - (4) 「台湾で、アッサム紅茶を！」
 - (5) 「台湾は天然の恩恵裕」 芳賀鋏五郎
- 谷村愛之助

【表紙写真解説】原図：Oviedo1535年作。桜井芳次郎著『パイナップル』（台湾総督府官房調査課、1925年発行）口絵より作成。（附属図書館所蔵）

ほっかいどうだいがくだいがくぶんしょかん

北海道大学大学文書館

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目 北海道大学附属図書館4階

- 〈 電話・ファックス 〉 011-706-2395
〈 メールアドレス 〉 archives@general.hokudai.ac.jp
〈 ホームページ 〉 <http://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/>